



「ミスはミスを呼ぶ 悪手は悪手を呼ぶ」

今や藤井聡太四段を知らない人はいないだろう。昨年10月、史上最年少の14歳2カ月で将棋界にプロ入りし、公式戦デビュー後負け

勝敗の行方を見守った視聴数は歴代2位の1200万超視聴を記録したという。

最多連勝記録の更新とはならなかったものの、錚々たる先輩プロ棋士を相手に勝つことで、さらに強くなるという勝負師としての進

「諦めない人間力」 転期に立つ経営の視座⑤

知らずの29連勝という歴代連勝記録単独トップの偉業を遂げた新進気鋭の中学三年生棋士だ。

7月2日、30連勝をかけた「第30期竜王戦決勝トーナメント2回戦」が行われ、インターネット放送局「AbemaTV」が10時間に及ぶ対局を生中継し、固唾を呑んで

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。「継業と人材創造塾」主宰。『介護ビジネス』編集委員。介護福祉教育マスター。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人材創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ! 経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

HP: <http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

化を続ける天才棋士の快進撃からは目が離せない。

白星を重ねる要因の一つとして、人並み外れた集中力の高さを挙げたい。その背景には、3歳で入園した地元幼稚園が子どもの感受性や自発性を尊重する「モンテッソーリ教育*1」の中で育まれ

た学びの環境が下地にあると指摘する識者は少なくない。

また、人工知能(AI: Artificial Intelligence)を用いた将棋ソフトを使い技を研究していることもあり、対局中に繰り出される数々の最善手は、従来の将棋界の定石からは考えにくい新たな一手である。こうした発想力豊かな一手を、物おじせず指してくる。

羽生善治(史上初の将棋7冠王)の名言の一つ「ミスはミスを呼び、悪手は悪手を呼ぶ。プロがミスをしないのは、ミスしにくい局面を選択しているからなんです。本当に見たこともない新手は、閃きみたいなものからしか生まれない。でも、それは、先人観をすべて捨てて考えないとなかなかできない」を敷衍(ふまへ)意味などを詳しく説明する意)したに違いない。

「自ら考え、創造する力」

『東大物理学者が教える「考える力」の鍛え方』の著者・上田正仁は、「マニユアルだけでは乗り切れない新しい社会の状況に対応するためには、本当の意味での「考える力」を鍛え、創造する力」を身につけることが必要である」と

語る。

また、「考える力」は「マニユアル力」の基礎の上に成り立ち、「創造する力」は「考える力」がなくては成立しないこと。「考える力」と「創造する力」は表裏一体の能力であることから、「自ら考え、創造する力」を持つこと。そのためには、①問題を見つける力(他の人は誰も疑問に感じないところ、常識だと考えられているところに問題点を見出す能力のこと)、②解く力(自ら創造した課題に取り組み、克服すべき問題点を整理・分析・分解し、答えに至る能力のこと)、③諦めない人間力(目に見える成果が出なくても、諦めず、根本的な解決・答えを見つけ出すまで粘り強く考え続ける能力のこと)の3つの要素が欠かせない」と説いている。

2018年度介護保険制度改正を踏まえ、自らの経営課題に向き合うとしたら、①問題を見つける力、②解く力、③諦めない人間力を鍛えつつ、「自ら考え、創造する力」を研ぎ澄ませることである。『私』は、頭が良いわけではない。ただ、人よりも長い時間、問題と向き合うようにしているだけである*2

*1: イタリアの教育家で医師だったマリア・モンテッソーリ(1870~1952年)が提唱した教育法。

*2: アインシュタインの名言から